温室効果ガス排出実態把握のための実態調査(冷暖房の設備)結果

全国地球温暖化防止活動推進センターからの依頼に基づき、推進員、浄化槽協会々員、県市町職員、協会職員家庭を対象に冷蔵庫の使用実態調査並びに一般住宅の冷暖房の使用実態調査を実施した。

〇調査時期　　平成28年11～平成29年1月

〇調査対象　　推進員、浄化槽協会々員、県市町職員、協会職員に配布した。

〇調査内容

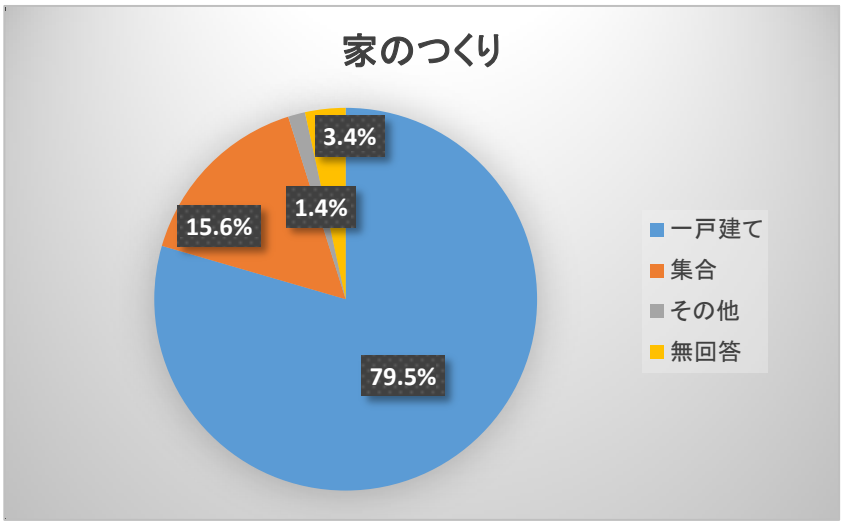
◇冷暖房の使用実態調査票

回収数：558件

冷暖房の使用実態調査票

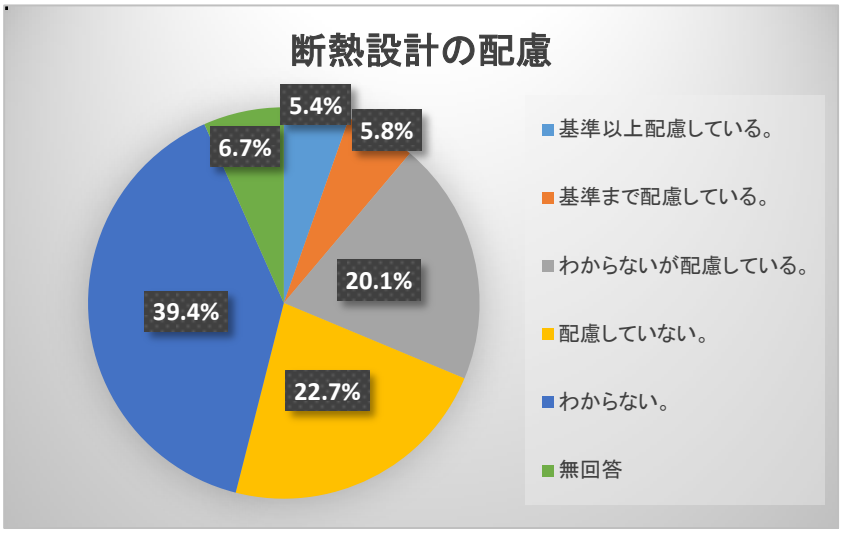
【冷暖房の使用実態調査票結果】

①住まいの違いによる各種データの比較



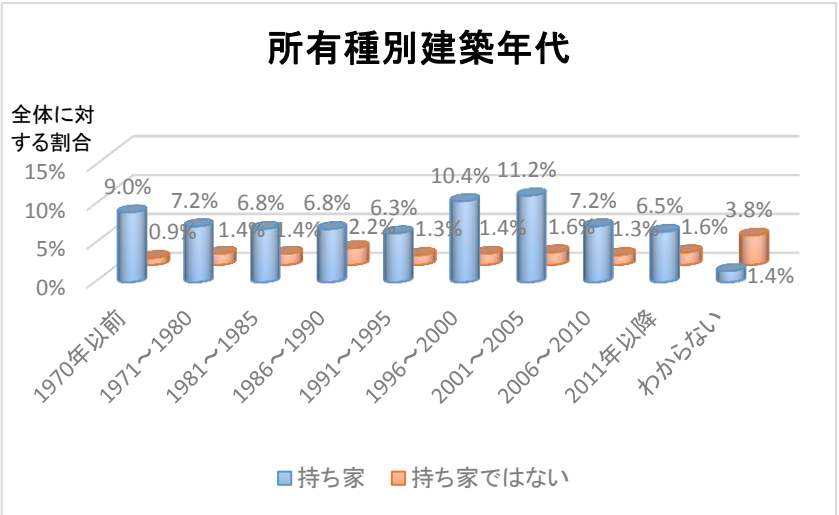
図－1　1.住宅のタイプについて

家のつくりでは、「一戸建て」が79.5%と最も多く、次いで「集合」住宅が15.6%、「その他」が1.4%だった。



図－2　2. 建築時の断熱設計の配慮

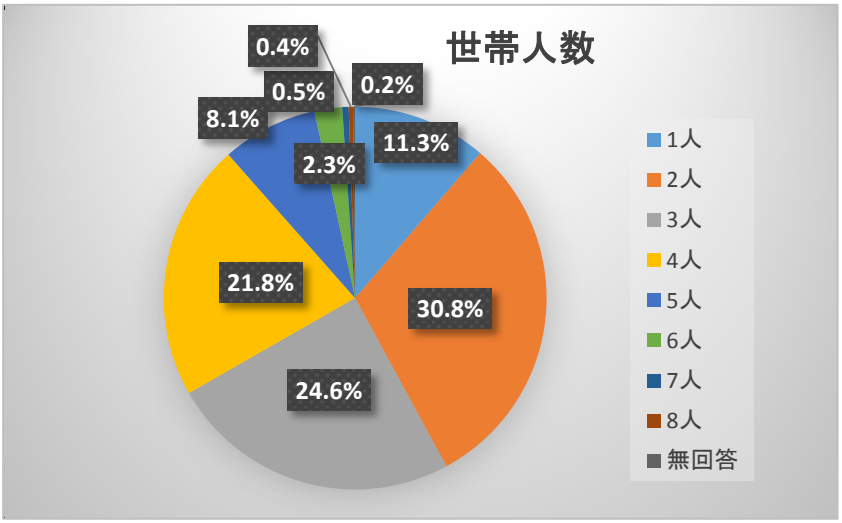
断熱設計については、「わからない」が39.4%と最も多く、「配慮していない」22.7%と合わせると62.1%となり、6割以上の方が断熱については配慮していない、もしくは意識していない結果となった。



図－3　3. 所有種別建築年代

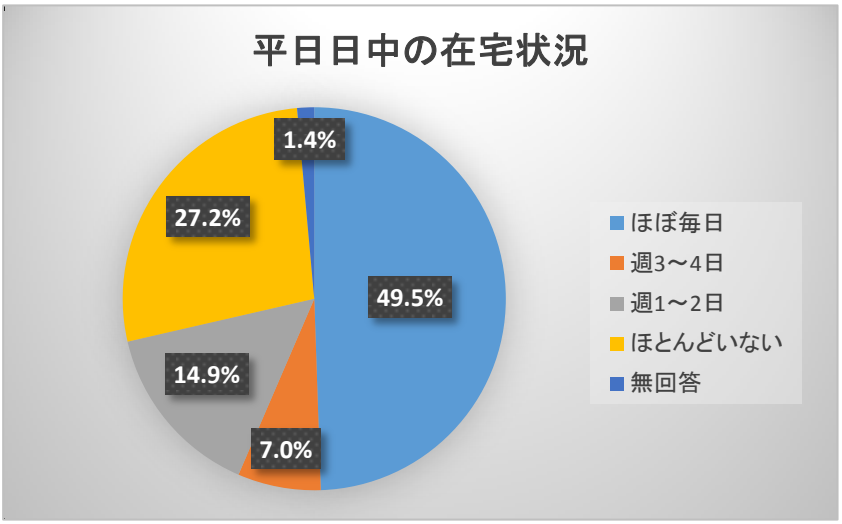
建築年代では、持ち家の「1970年以前」「1996～2000」「2001～2010」年代が比較的多かった。

②世帯構成について



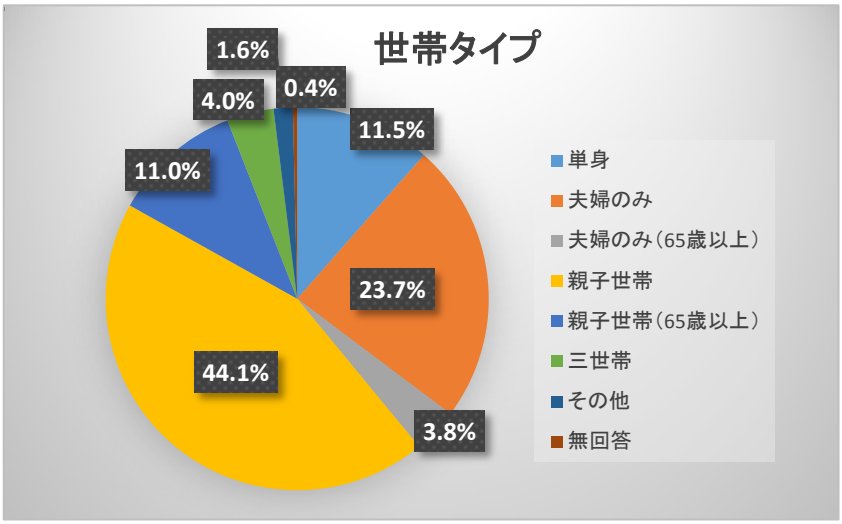
図－4　1. 世帯人数について

世帯人数は、2～4人が全体の77.2%を占め、核家族の多い結果となった。



図－5　2. 平日の在宅状況について

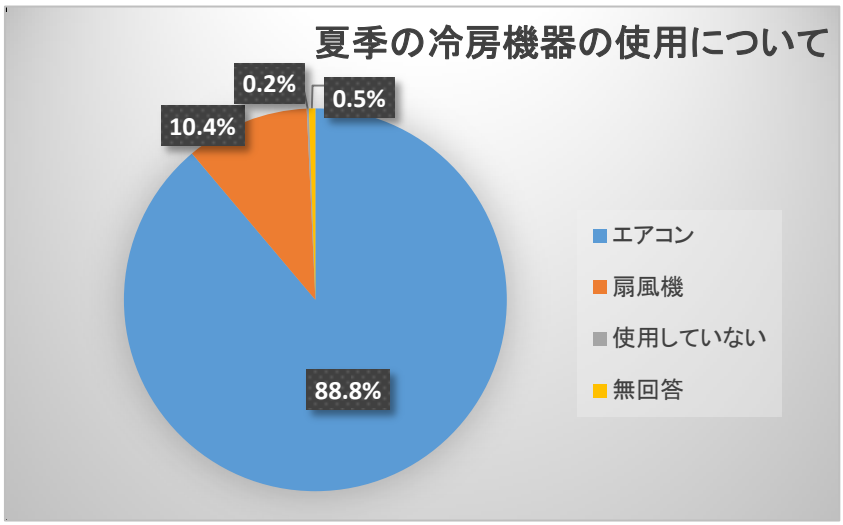
平日の在宅状況については、約50%の方が「ほぼ毎日」在宅している状況だった。



図－6　2. 平日の在宅状況について

「単身」11.5%、「夫婦のみ」23.7%、「夫婦のみ(65歳以上)」3.8%が計39%、「親子世帯」が44.1%と最も多く、「親子世帯(65歳以上)」が11.0%で計55.1%となり、核家族もしくは二世帯が大半を占める結果となった。

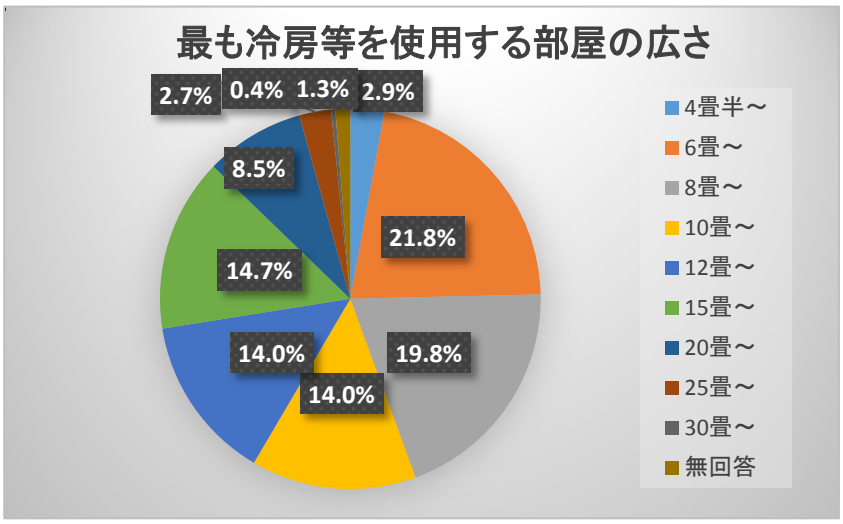
③冷房等の使い方について



図－7　1. 夏季の冷房機器の使用について

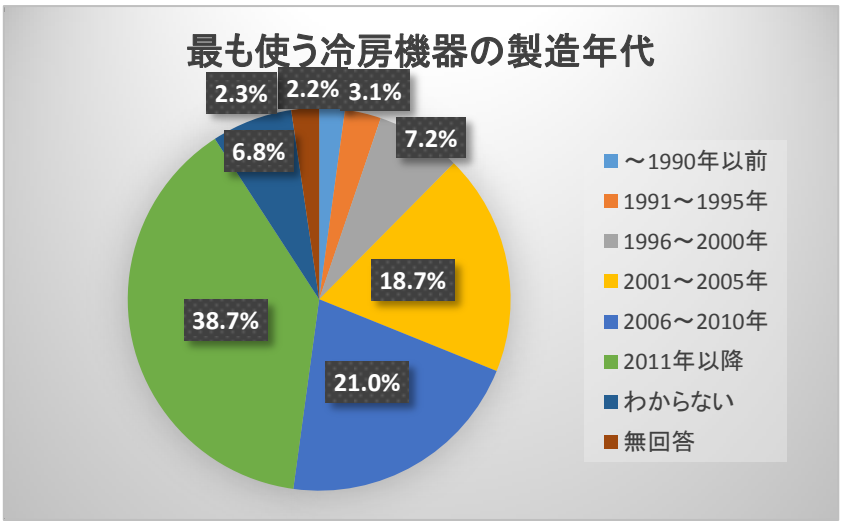
夏季の冷房機器の使用については、「エアコン」が88.8%と圧倒的に多く、「扇風機」が10.4%だった。「使用していない」はわずか0.2%であり、ほとんどの方が冷房機器を使用している結果となった。

③冷房等の使い方について



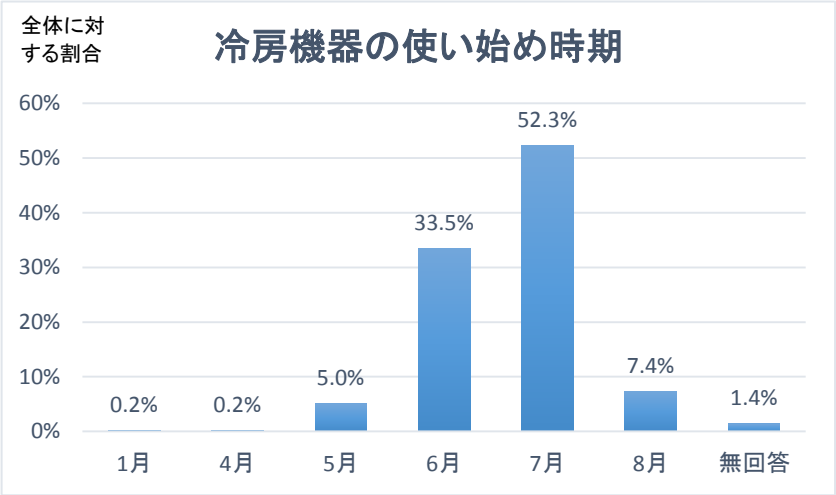
図－8　2. 最も冷房等を使用する部屋の広さ

最も冷房を使用する部屋の広さとしては、「6畳～」21.8%、「8畳～」19.8%、「10畳～」14.0%、「12畳～」14.0%、「15畳～」14.7%と主に6畳から15畳ぐらいの広さの部屋で使用されていた。

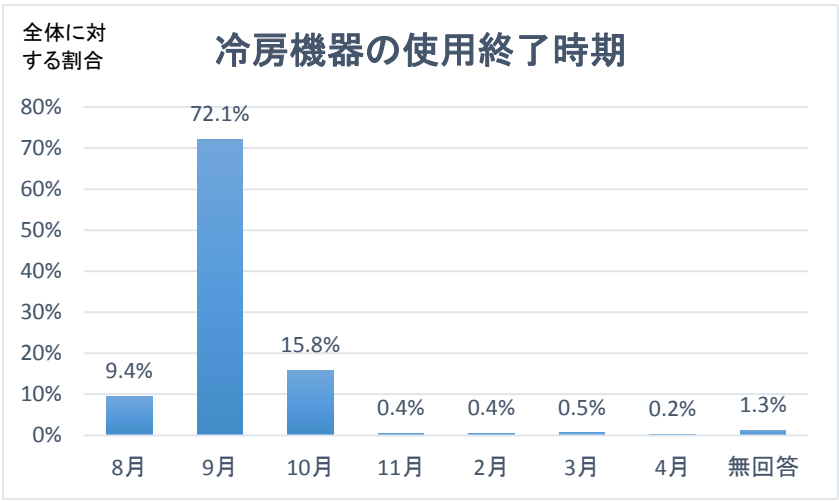


図－9　3.最も使う冷房機器の製造年代

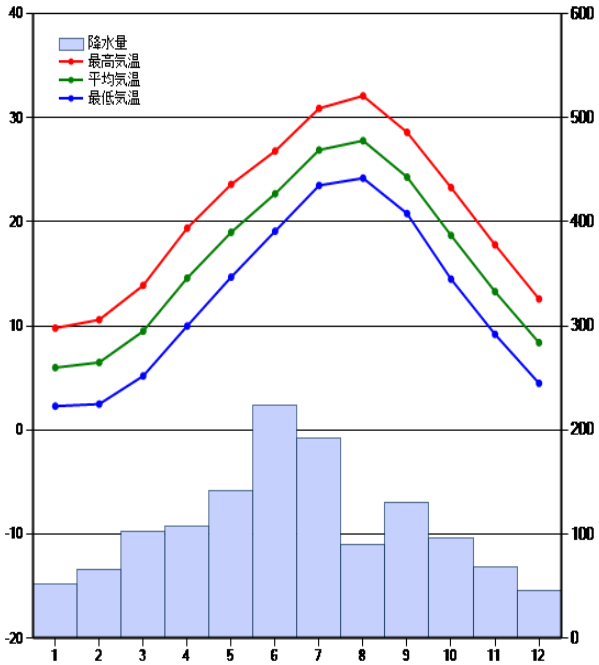
最も使う冷房機器の製造年代としては、「2011年以降」(約5年以内)38.7%、次いで「2006～2010年」(約10年程度前)21.0%となり、製造から5年以内のものが最も多いが、「2001～2005年」(約15年程度前)18.7%、それ以前に製造されたものを合わせると、10年以上前に製造されているものの割合は合計で31.2%となった。



図－10　4.冷房機器の使い始め時期



図－11　6.冷房機器の使用終了時期



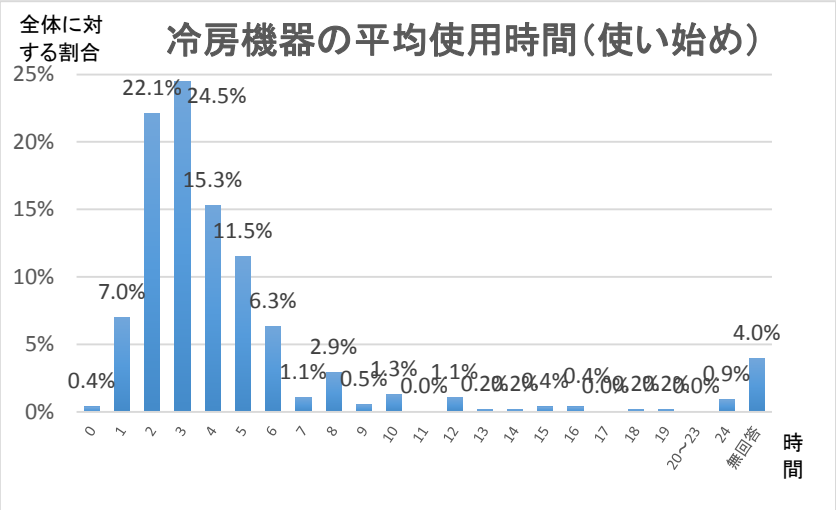
松山 年平均気温：16.5 ℃　年降水量：1314.9 mm　統計期間：1981~2010

図－12　5.愛媛県松山市の気候

冷房機器の使用開始時期としては、「6月」33.5%より多くなり始めて、「7月」52.3%となり、この2ヵ月までにほとんどの方が使用を開始している。

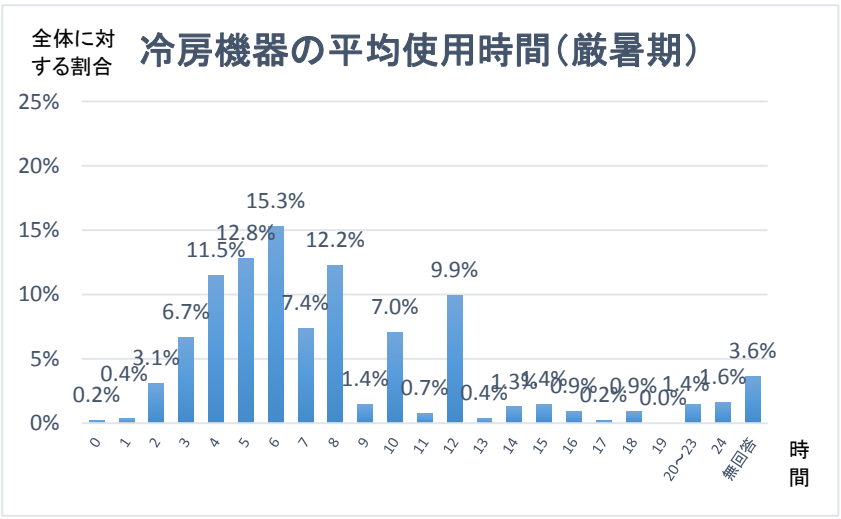
図-11の愛媛県松山市の気候図と照らし合わせると、6月の降水量が最も多く、7月から気温が上昇することから、蒸し暑く感じて冷房機器を使用し始める方が多いと推察する。

冷房機器の使用終了時期としては、「9月」72.1%、「10月」15.8%となり、この2ヵ月までにほとんどの方が使用を終了している。図－11の愛媛県松山市の気候図と照らし合わせると9月になると6月以上の気温ではあるが、降水量が少なく(5月並み)、蒸し暑さが和らいで使用を終了するものと推察する。



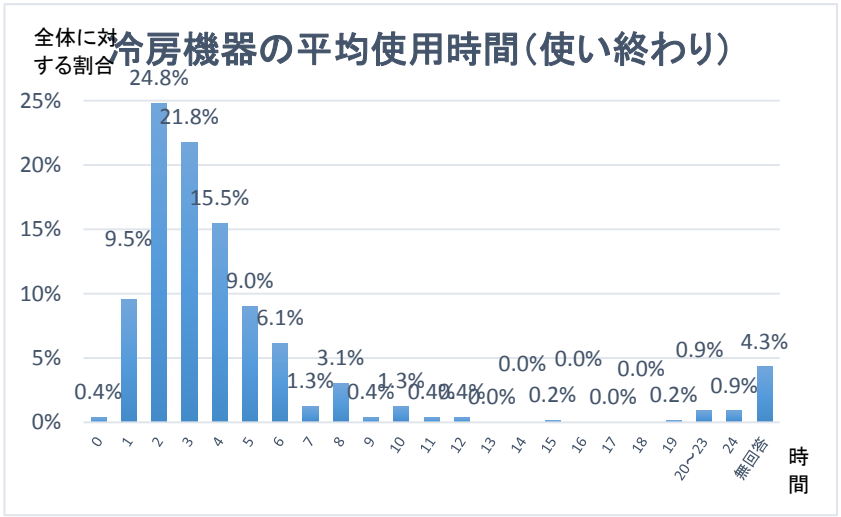
図－13　7.冷房機器の平均使用時間(使い始め)

冷房機器を使い始める時期の平均使用時間としては、「2時間」22.1%、「3時間」24.5%、「4時間」15.3%、「5時間」11.5%となっている。約8割の方が5時間以下の使用となっている。



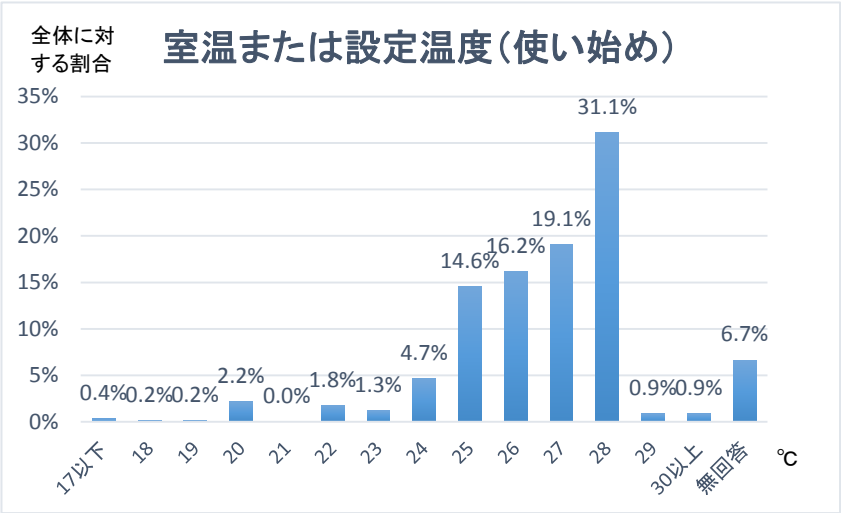
図－14　8.冷房機器の平均使用時間(厳暑期)

厳暑期には、「6時間」15.3%が最も多く、次いで「5時間」12.8%、「8時間」12.2%となっている。5時間以下の使用は約34%と、使い始めに対して半分以下に減少した。対して10時間以上の使用は、使い始めには合計でわずか4%程であったのに対し、厳暑期には合計で約25%となっている。



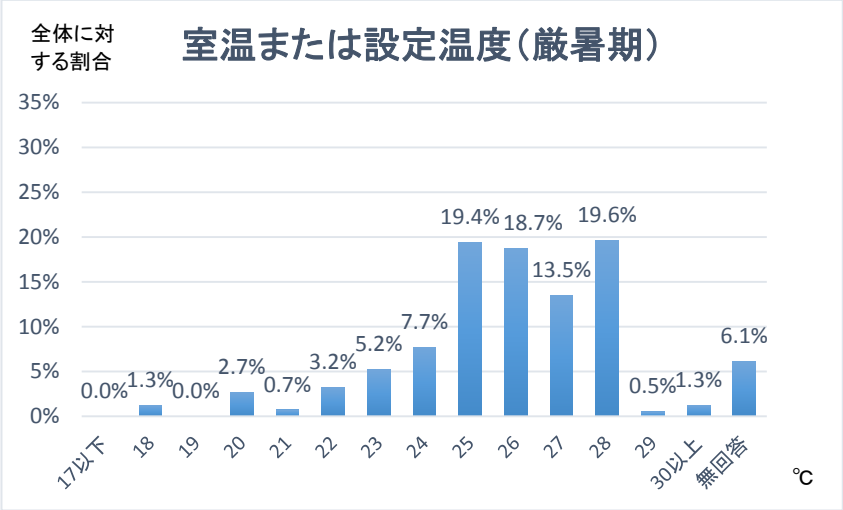
図－15　9.冷房機器の平均使用時間(使い終わり)

冷房機器を使い終わる時期には、「2時間」24.8%、「3時間」21.8%と使用時間が短くなり、使い始めとほぼ同等となっているのが分かる。



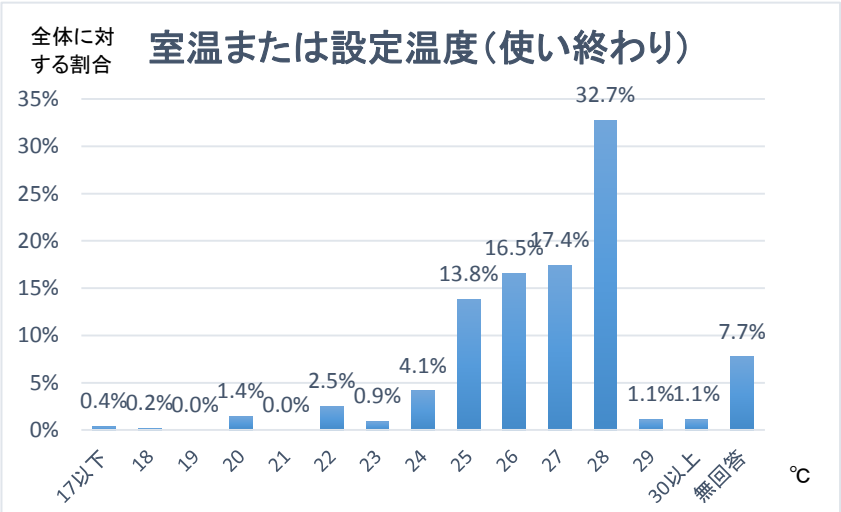
図－16　10.室温または設定温度(使い始め)

冷房機器を使い始める時期には、「28℃」31.1%、「27℃」19.1%と比較的高温に設定して使用していることが分かる。



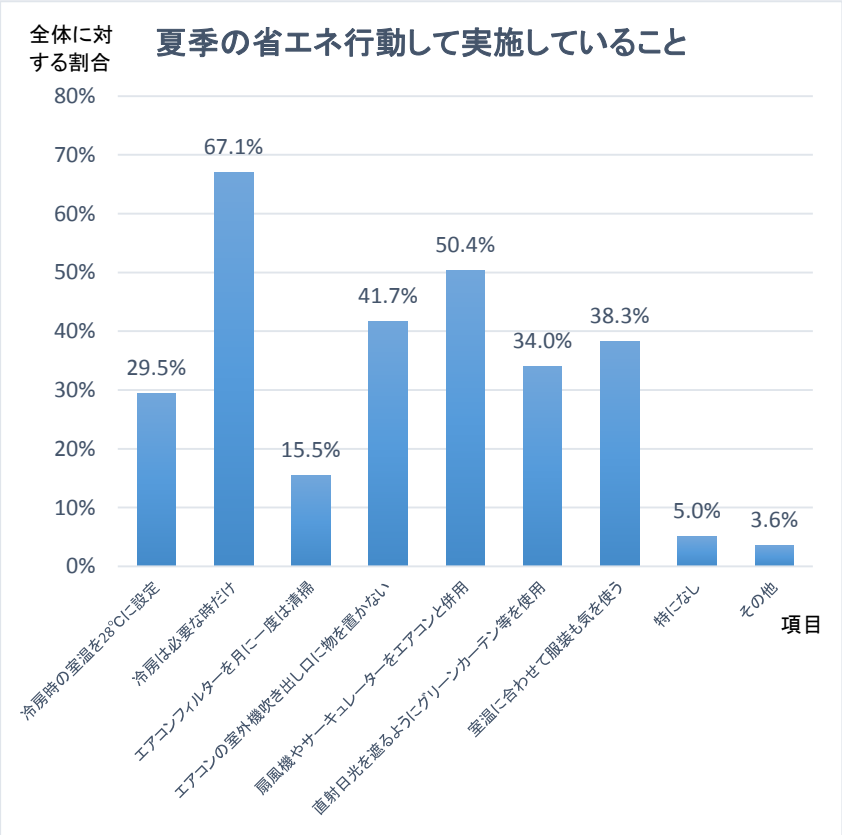
図－17　11.室温または設定温度(厳暑期)

厳暑期には、「25℃」19.4%、「26℃」18.7%と、使い始めと比べると設定温度は下がっているが、「28℃」19.6%と、比較的高温のまま使用している方も一定数いることが分かる。



図－18　12.室温または設定温度(使い終わり)

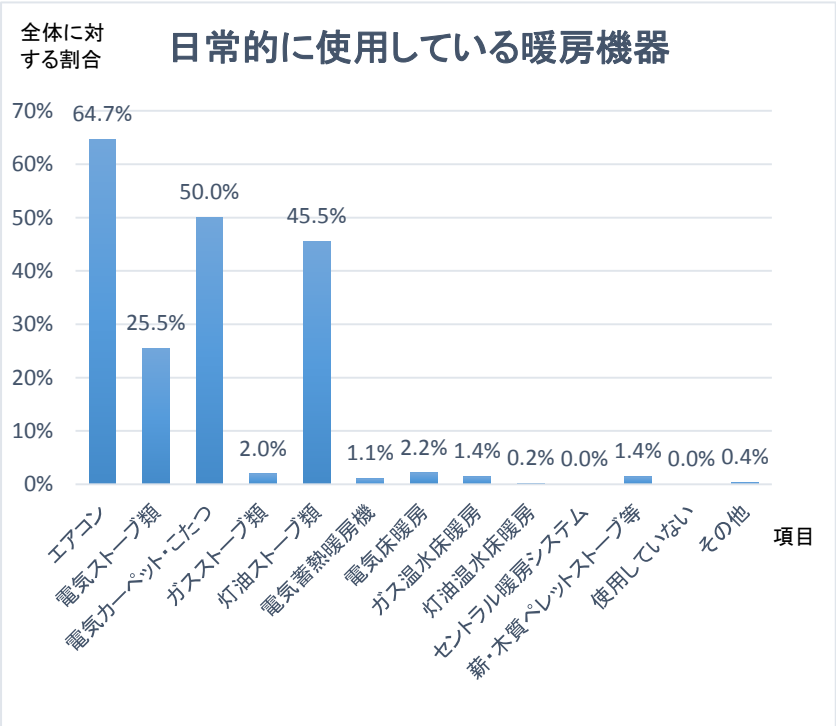
使い終わる時期には、「28℃」32.7%が最も多く、「27℃」17.4%、「26℃」16.5%と、使い始める時期とほぼ同等の設定温度となっている。



夏季の省エネ行動として、「冷房は必要な時だけ」を選んだ割合が67.1%と最も多く、次いで「扇風機やサーキュレーターをエアコンと併用」50.4%、「エアコンの室外機吹き出し口に物を置かない」41.7%等となった。

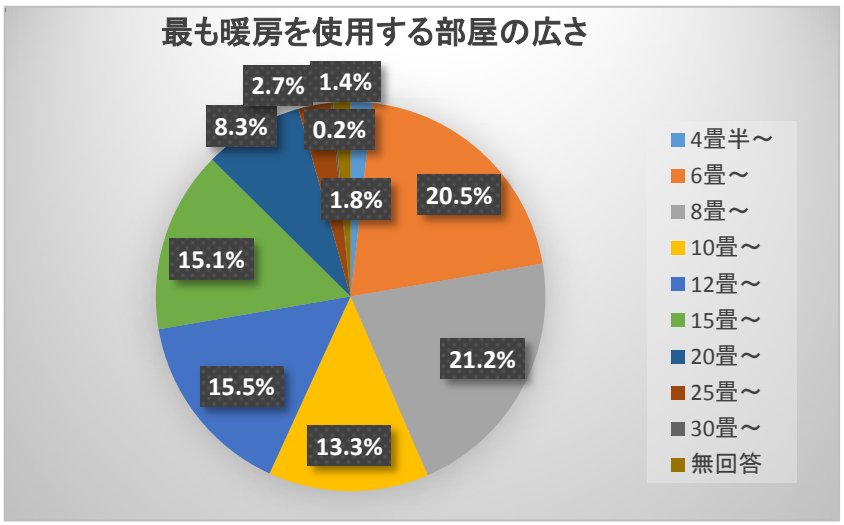
図－19　13.夏季の省エネ行動として実施していること

④暖房の使い方について



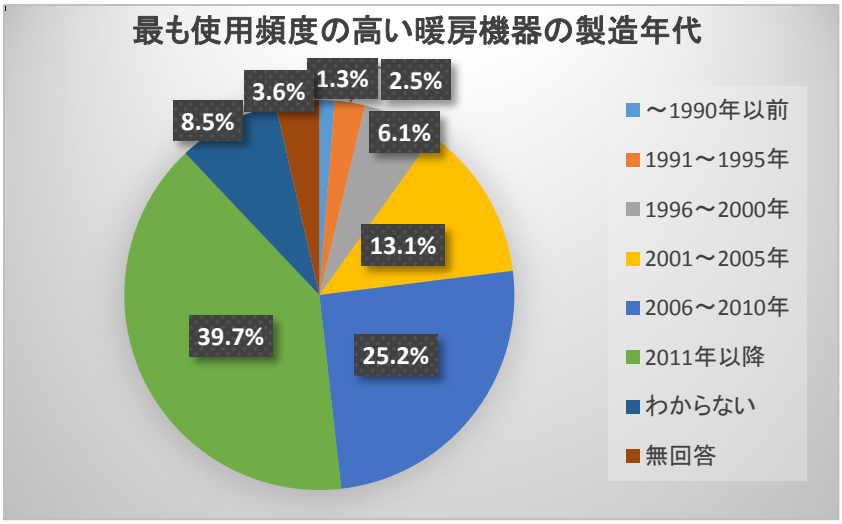
日常で使用している暖房機器としては、「エアコン」が64.7%と最も多く、次いで「電気カーペット・こたつ」50.0%、「灯油ストーブ類」45.5%となった。この3種類が突出しており、ガス機器の使用は少ないことが分かった。

図－20　1.日常的に使用している暖房機器



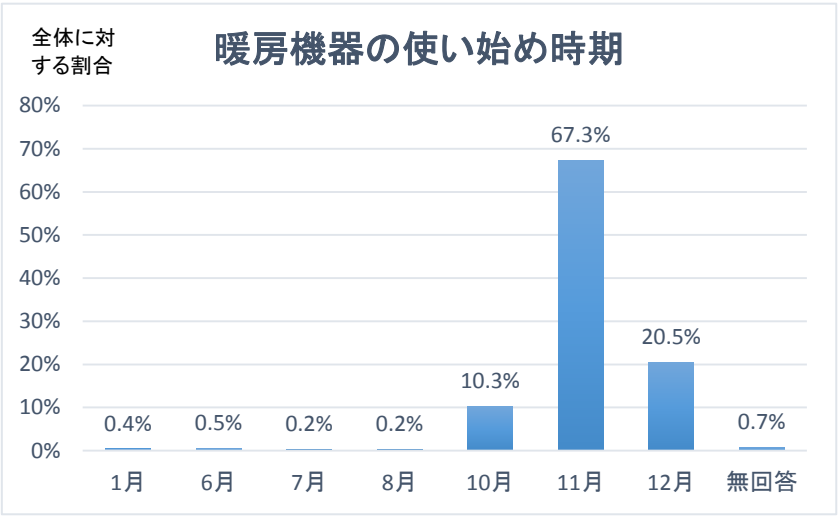
図－21　2. 最も暖房を使用する部屋の広さ

最も暖房を使用する部屋の広さとしては、「6畳～」20.5%、「8畳～」21.2%が多く、「10畳～」13.3%、「12畳～」15.5%、「15畳～」15.1%となり、冷房を使用する部屋の広さと似たような結果となった。



図－22　3. 最も使用頻度の高い暖房機器の製造年代

最も使う暖房機器の製造年代としては、「2011年以降」(約5年以内)39.7%、次いで「2006～2010年」(約10年程度前)25.2%となった。10年以上前に製造されているものの割合は合計で23.0%となり、冷房機器と比較すると、製造年代の古いものが少ない結果となった。

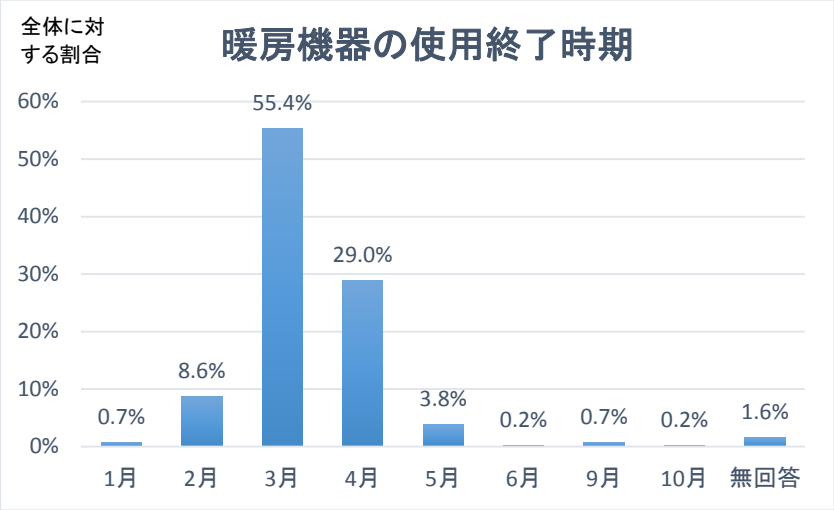


図－23　4. 暖房機器の使い始め時期

暖房機器の使い始め時期としては、「11月」67.3%が最も多い。

図－25の愛媛県松山の気候を見てみると10月頃から最低気温が15℃ほどになり、11月頃になると10℃を下回る。

急に寒くなり、暖房機器を使い始めると分かる。

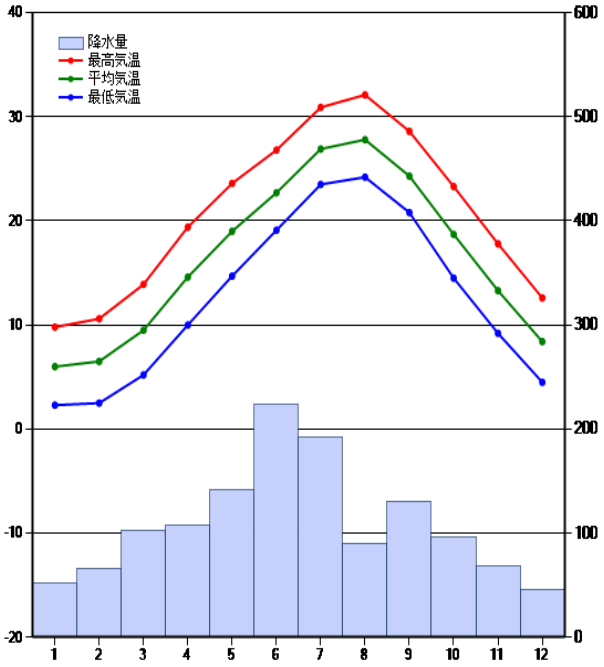


図－24　5. 暖房機器の使用終了時期

暖房機器の使用終了時期としては、「3月」55.4%が最も多い。

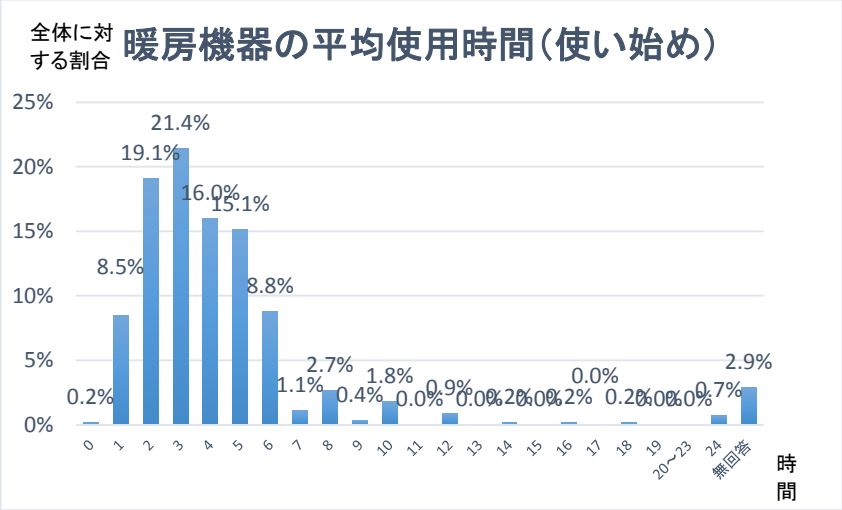
図－25の愛媛県松山市の気候を見てみると3月頃から最高気温が10℃を上回るようになる。

それまで寒さに慣れていたのが暖かくなり始めて、暖房機器の使用を終了すると分かる。



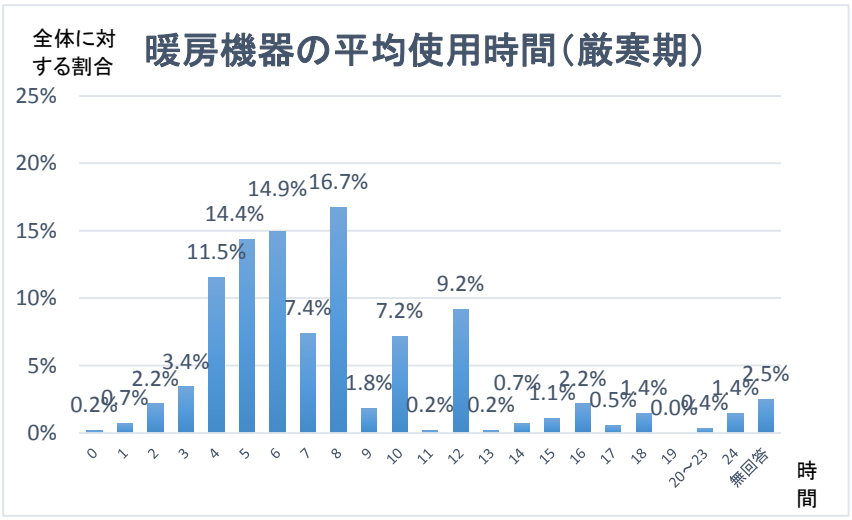
松山 年平均気温：16.5 ℃　年降水量：1314.9 mm　統計期間：1981~2010

図－25　6. 愛媛県松山市の気候



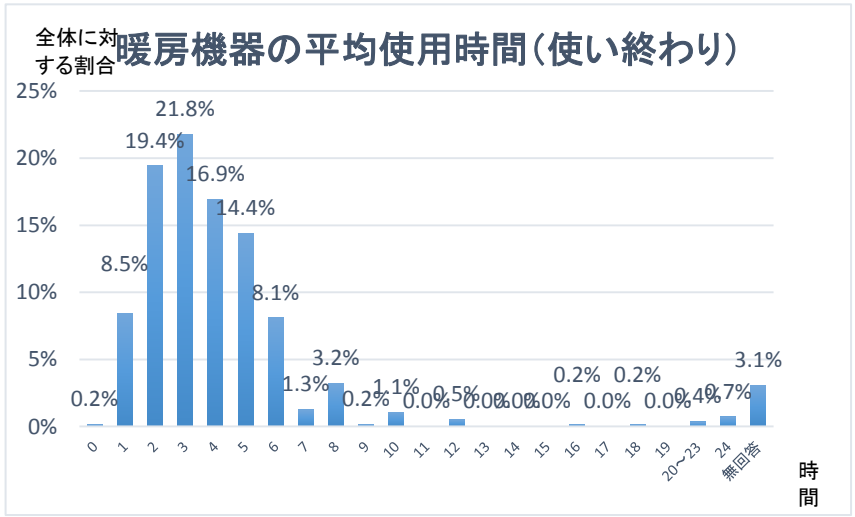
図－26　7. 暖房機器の平均使用時間(使い始め)

暖房機器を使い始める時期の平均使用時間としては、「3時間」21.4%が最も多く、次いで「2時間」19.1%、「4時間」16.0%、「5時間」15.1%となっている。約8割の方が5時間以下の使用となっている。



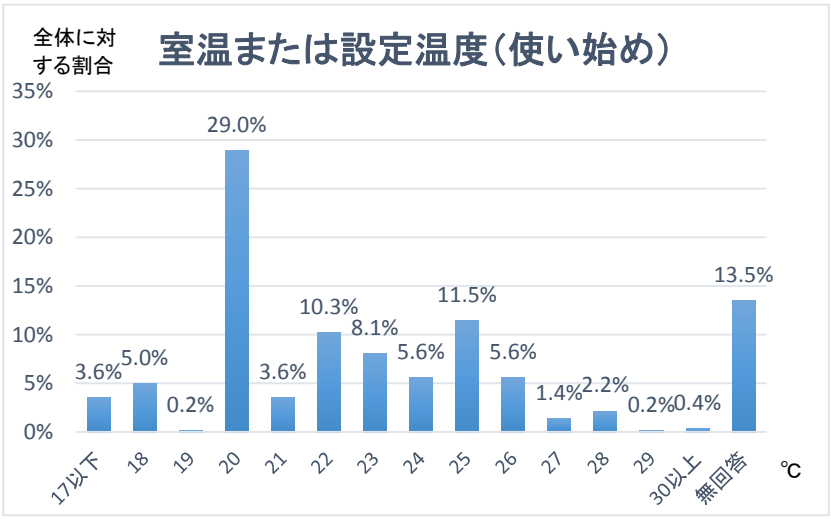
図－27　8. 暖房機器の平均使用時間(厳寒期)

厳寒期には、「8時間」16.7%が最も多く、次いで「6時間」14.9%、「5時間」14.4%となっている。5時間以下の使用は約32%と、使い始めに対して半分以下に減少した。対して10時間以上の使用は、使い始めには合計でわずか4%程であったのに対し、厳寒期には合計で約25%と



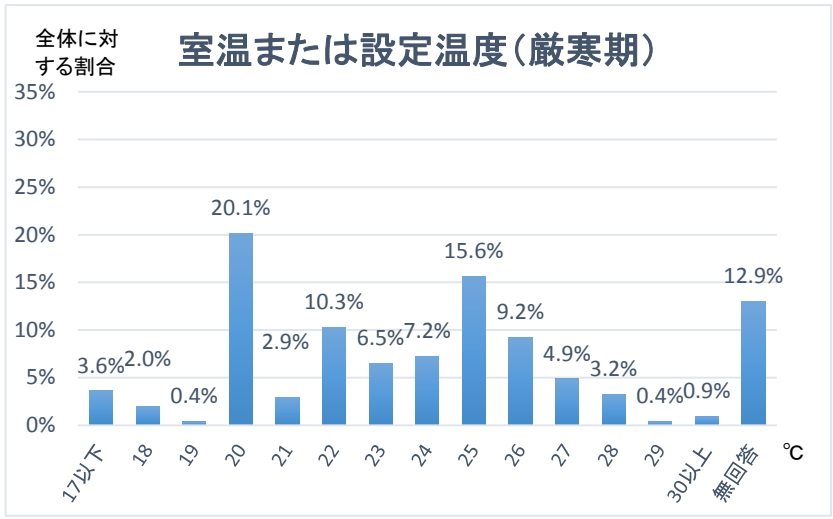
図－28　9. 暖房機器の平均使用時間(使い終わり)

暖房機器を使い終わる時期には、「3時間」21.8%、「2時間」19.4%と使用時間が短くなっているのが分かる。



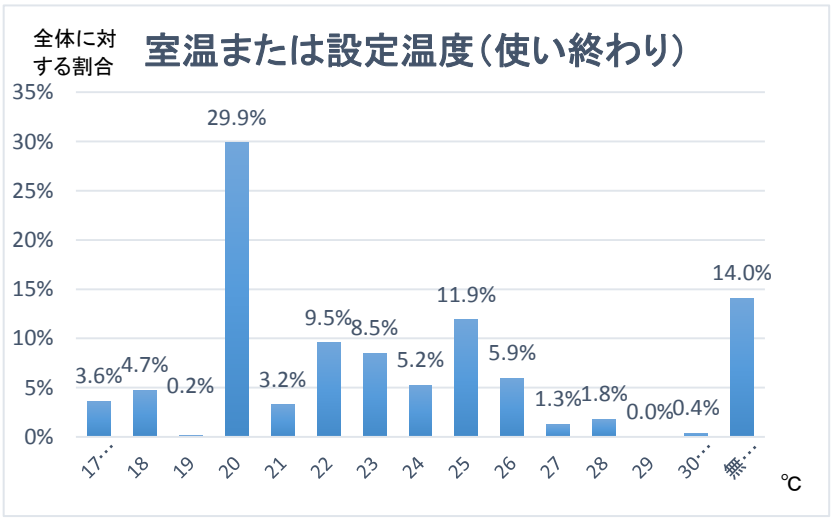
図－29　10. 室温または設定温度(使い始め)

暖房機器を使い始める時期には、「20℃」が29.0%と最も多く、比較的低温に設定して使用している方が多いことが分かる。25℃以上と比較的高温に設定している方の割合は、合計で約21%となった。



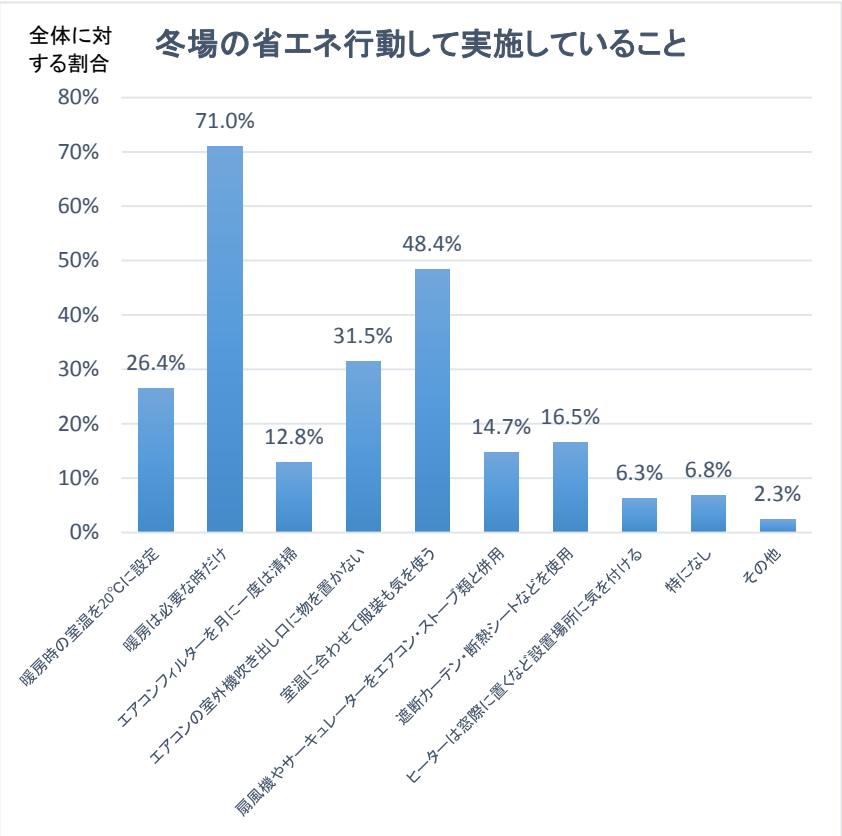
図－30　11. 室温または設定温度(厳寒期)

厳寒期には、「20℃」は20.1%と減少し、「25℃」15.6%、「26℃」9.2%等、25℃以上で設定している方の割合は合計で約34%となり、高温で使用する方の割合が増加したのが分かる。



図－31　12. 室温または設定温度(使い終わり)

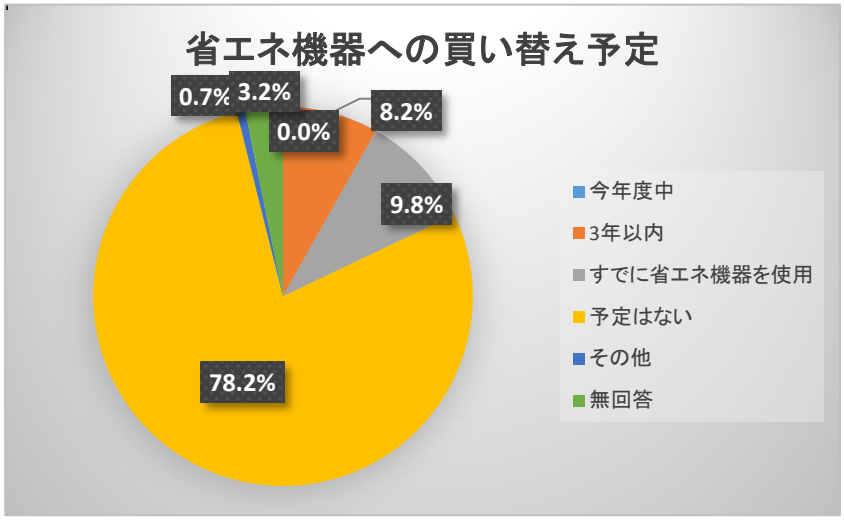
使い終わる時期には、「20℃」29.9%が最も多く、25℃以上に設定している方の割合は合計で約21%となり、使い始めとほぼ同等の結果となった。



図－32　13. 冬場の省エネ行動して実施していること

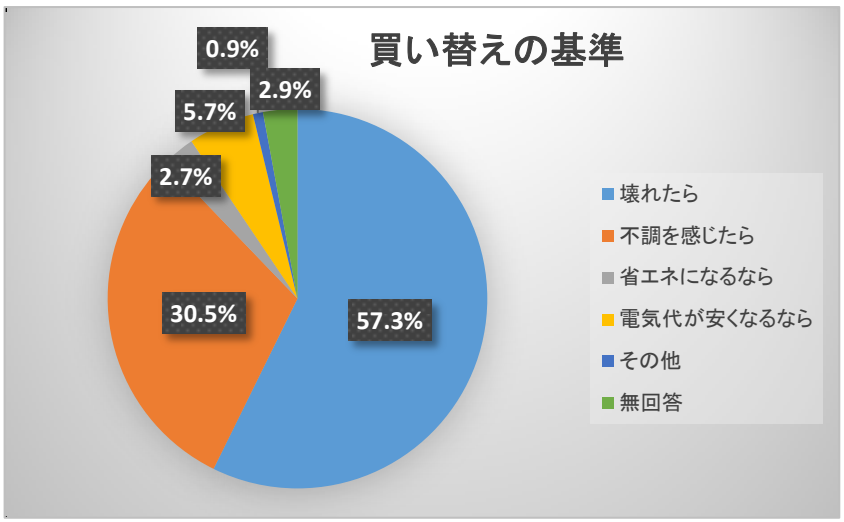
冬場の省エネ行動として、「暖房は必要な時だけ」を選んだ割合が71.0%と最も多く、次いで「室温に合わせて服装も気を使う」48.4%、「エアコンの室外機吹き出し口に物を置かない」31.5%等となった。

⑤省エネ機器への買い替えについて



図－33　1. 省エネ機器への買い替え予定

　省エネ機器への買い替え予定については、「予定はない」78.2%と最も多く、「すでに省エネ機器を使用」は9.8%に留まった。省エネ機器への関心はまだまだ低いと言える。



図－34　2. 買い替えの基準

　省エネ機器への買い替え基準については、「壊れたら」57.3%と最も多く、「不調を感じたら」0.5%と合わせて90%に近く、必要性に迫られないと買い替えないと思われる。